

四半期報告書

(第62期第2四半期)

株式会社構造計画研究所

東京都中野区本町四丁目38番13号
日本ホルスタイン会館内

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
3 経営上の重要な契約等	5
第3 提出会社の状況	6
1 株式等の状況	6
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(5) 大株主の状況	7
(6) 議決権の状況	8
2 役員の状況	9
第4 経理の状況	10
1 四半期財務諸表	11
(1) 四半期貸借対照表	11
(2) 四半期損益計算書	13
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	14
2 その他	20
第二部 提出会社の保証会社等の情報	21

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月12日
【四半期会計期間】	第62期第2四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社構造計画研究所
【英訳名】	KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長 服部 正太
【本店の所在の場所】	東京都中野区本町四丁目38番13号 日本ホルスタイン会館内
【電話番号】	(03)5342-1100（代表）
【事務連絡者氏名】	専務執行役 荒木 秀朗
【最寄りの連絡場所】	東京都中野区本町四丁目38番13号 日本ホルスタイン会館内
【電話番号】	(03)5342-1100（代表）
【事務連絡者氏名】	専務執行役 荒木 秀朗
【縦覧に供する場所】	株式会社構造計画研究所 大阪支社 （大阪市中央区淡路町三丁目6番3号 御堂筋MTRビル5階） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次		第61期 第2四半期累計期間	第62期 第2四半期累計期間	第61期
会計期間		自 2018年7月1日 至 2018年12月31日	自 2019年7月1日 至 2019年12月31日	自 2018年7月1日 至 2019年6月30日
売上高	(千円)	4,610,214	4,554,589	11,966,216
経常利益又は経常損失(△)	(千円)	△156,708	△327,484	1,246,314
四半期純損失(△)又は当期純利益	(千円)	△284,626	△249,932	682,565
持分法を適用した場合の投資損失(△)	(千円)	△156,624	△50,752	△192,737
資本金	(千円)	1,010,200	1,010,200	1,010,200
発行済株式総数	(株)	5,500,000	5,500,000	5,500,000
純資産額	(千円)	4,347,801	5,104,627	5,426,374
総資産額	(千円)	12,575,324	13,382,555	12,998,775
1株当たり四半期純損失金額(△)又は当期純利益金額	(円)	△58.32	△48.67	138.04
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	—	—	—
1株当たり配当額	(円)	30.00	40.00	90.00
自己資本比率	(%)	34.6	38.1	41.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△237,714	△553,472	1,633,619
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△740,017	△320,226	△1,453,533
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,417,658	510,898	111,852
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(千円)	1,499,737	988,760	1,351,550

回次		第61期 第2四半期会計期間	第62期 第2四半期会計期間
会計期間		自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純損失金額(△)	(円)	△6.97	△51.72

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第61期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 第61期第2四半期累計期間及び第62期第2四半期累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社（非連結子会社3社及び関連会社6社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当社は「Professional Design & Engineering Firm」として、工学知に裏付けられた高付加価値なサービスを提供しております。

事業活動においては、収益の拡大と利益の確保、及び得られた利益を再投資に回すサイクルにより、企業として持続的に成長し続けることを重視しております。収益の拡大に関しては、既存事業において経験曲線効果を重視し、工学知の積み重ねと着実な付加価値向上を目指すとともに、新規顧客・テーマの開拓にも注力しております。利益の確保に関しては、高付加価値サービスに見合う見積価格の提示、不採算プロジェクトを抑制するための組織的な品質確保等に取り組んでおります。また、社内事業開発テーマへの投資や国内外を問わず最先端の技術を持つパートナーとの協業等を行って得られた利益を再投資に回し、新しい事業の開発に努めております。

さらに、人材の育成や働く環境の向上にも積極的に投資をしております。

上記方針のもと、当第2四半期累計期間におきましては営業及びマーケティング活動が順調に進み、68億12百万円（前年同期は60億19百万円）の受注を獲得しました。前期から繰り越された豊富な受注残に加え上期受注の積み上げがあったものの、エンジニアリングコンサルティング案件の一部の売上計上時期が第3四半期会計期間以降に見込まれているため、当期間の売上高は45億54百万円（前年同期は46億10百万円）となりました。利益面では、上記売上計上時期による影響のほか、積極的な営業活動を展開したことに伴う販売費の増加等により、営業損失は3億1百万円（前年同期は1億65百万円の損失）、経常損失は3億27百万円（前年同期は1億56百万円の損失）、四半期純損失は2億49百万円（前年同期は2億84百万円の損失）となりました。当社の業績は、多くの顧客が決算期を迎える下半期に売上がより多く計上される季節変動要因を有しております。

なお、受注残高につきましては、前期から繰り越された豊富な受注残に加え、営業活動が順調に推移したことにより、85億35百万円（前年同期は68億29百万円）を確保しており、当事業年度末に向けた事業活動は順調に推移しております。

以上を踏まえ、2019年12月31日を基準日とした当第2四半期末配当金に関しては、1株当たり20円とすることを決定いたしました。なお、年間配当金の予想につきましては、1株当たり100円で変更はありません。

当第2四半期累計期間の報告セグメント別の状況は、次のとおりであります。各報告セグメントに関しては、「第4 経理の状況 注記事項（セグメント情報等） II 当第2四半期累計期間（自 2019年7月1日 至 2019年12月31日）」もご参照ください。

（エンジニアリングコンサルティング）

当第2四半期累計期間においては、構造設計コンサルティング業務、住宅メーカー向けシステム開発業務、及び建設・製造業向けシステム開発業務が堅調に推移しました。当セグメントでは、豊富な受注の積み上げがあるものの、第3四半期会計期間以降に売上計上が見込まれている案件が一部含まれていることから、当期間の売上高は30億90百万円（前年同期は32億59百万円）、売上総利益は18億54百万円（前年同期は19億43百万円）となりました。

なお、受注残高につきましては、75億18百万円（前年同期は59億43百万円）を確保しております。

（プロダクツサービス）

当第2四半期累計期間においては、米国SendGrid, Inc.のクラウドベースメール配信サービスや米国LockState, Inc.の入退室管理クラウドサービスが順調に販売を拡大しました。また、設計者向けCAEソフト、粒子法流体解析ソフト、リスクマネジメントプラットフォームの販売が堅調に推移し、当セグメントは着実に進展しております。この結果、プロダクツサービス事業における当期間の売上高は14億64百万円（前年同期は13億50百万円）、売上総利益は5億46百万円（前年同期は4億90百万円）となりました。

なお、受注残高につきましては、10億17百万円（前年同期は8億86百万円）を確保しております。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて3.1%増加し、43億25百万円となりました。これは、主に仕掛品が7億78百万円、前渡金が1億25百万円増加する一方、現金及び預金が3億62百万円、受取手形及び売掛金が4億98百万円減少したことによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて2.9%増加し、90億57百万円となりました。これは主に投資その他の資産のその他に含まれる敷金が1億95百万円増加したことによります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて3.0%増加し、133億82百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて41.8%増加し、51億54百万円となりました。これは、主に短期借入金が12億円、前受金が6億89百万円増加する一方、未払費用が6億82百万円減少したことによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて20.7%減少し、31億22百万円となりました。これは、主に長期借入金が8億18百万円減少したことによります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて9.3%増加し、82億77百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べて5.9%減少し、51億4百万円となりました。これは、主に利益剰余金が5億97百万円、自己株式が2億70百万円減少したことによります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、9億88百万円（前年同四半期比5億10百万円減少）となりました。

当第2四半期累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動による資金の減少は、5億53百万円（前年同四半期比3億15百万円の支出増）となりました。主な要因は、税引前四半期純損失3億40百万円、たな卸資産の増加額7億80百万円、未払費用の減少額6億82百万円、売上債権の減少額11億88百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動による資金の減少は、3億20百万円（前年同四半期比4億19百万円の支出減）となりました。主な要因は、その他に含まれる敷金の増加による支出1億95百万円、投資有価証券の取得による支出50百万円、有形固定資産の取得による支出16百万円、無形固定資産の取得による支出48百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動による資金の増加は、5億10百万円（前年同四半期比9億6百万円の収入減）となりました。主な要因は、資金の流入では短期借入金の純増額12億円、資金の流出では長期借入金の返済による支出5億83百万円、配当金の支払額3億48百万円であります。

(4) 生産、受注及び販売の実績

① 生産実績

当第2四半期累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高（千円）	前年同四半期比（％）
エンジニアリングコンサルティング	2,007,389	104.2
プロダクツサービス	921,139	106.7
合計	2,928,529	105.0

(注) 1. 金額は総製造費用より他勘定振替高を控除した金額によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 受注実績

当第2四半期累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高（千円）	前年同四半期比（％）	受注残高（千円）	前年同四半期比（％）
エンジニアリングコンサルティング	5,414,070	111.7	7,518,793	126.5
プロダクツサービス	1,398,554	119.2	1,017,023	114.7
合計	6,812,625	113.2	8,535,817	125.0

(注) 1. 金額は販売価額によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高（千円）	前年同四半期比（％）
エンジニアリングコンサルティング	3,090,368	94.8
プロダクツサービス	1,464,220	108.4
合計	4,554,589	98.8

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は98百万円であります。

なお、当第2四半期累計期間において当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,624,000
計	21,624,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月12日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	5,500,000	5,500,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	5,500,000	5,500,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	—	5,500	—	1,010	—	252

(5) 【大株主の状況】

2019年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	539	10.07
株式会社南悠商社	東京都港区虎ノ門4-1-35	490	9.15
服部 正太	東京都品川区	438	8.18
構研所員持株会	東京都中野区本町4-38-13	383	7.16
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	200	3.74
有限会社構研コンサルタント	東京都千代田区神田神保町1-103-501	150	2.80
富野 壽	神奈川県茅ヶ崎市	121	2.26
阿部 誠允	東京都武蔵野市	93	1.75
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL(常 任代理人 ゴールドマン・サックス 証券株式会社)	PLUMTREE COURT, 25 SHOE LANE, LONDON EC4A 4AU, U.K. (東京都港区六本木6-10 -1)	66	1.23
外池 栄一郎	東京都千代田区	50	0.93
計	—	2,531	47.29

(注) 1. 上記のうち、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式539千株は、信託業務に係る株式数であります。

2. 上記の他、当社所有の自己株式146千株(2.66%)があります。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 146,500	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 5,351,800	53,518	—
単元未満株式	普通株式 1,700	—	—
発行済株式総数	5,500,000	—	—
総株主の議決権	—	53,518	—

(注) 1. 単元未満株式数には、当社所有の自己株式71株が含まれております。

2. 上記の他、財務諸表において自己株式として認識している当社株式は173,340株であります。これは、2017年役員向け株式給付信託が保有する当社株式46,040株及び2018年E S O P信託が保有する当社株式127,300株につき、会計処理上当社と当該信託は一体のものであると認識し、当該株式を自己株式として計上しているためであります。なお、2017年役員向け株式給付信託が保有する当社株式については、信託期間中、議決権を行使しないものとします。

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合 (%)
(自己保有株式) 株式会社構造計画研究所	東京都中野区本町4-38-13 日本ホルスタイン会館内	146,500	—	146,500	2.66
計	—	146,500	—	146,500	2.66

(注) 上記の他、財務諸表において自己株式として認識している当社株式は173,340株であります。これは、2017年役員向け株式給付信託が保有する当社株式46,040株及び2018年E S O P信託が保有する当社株式127,300株につき、会計処理上当社と当該信託は一体のものであると認識し、当該株式を自己株式として計上しているためであります。なお、2017年役員向け株式給付信託が保有する当社株式については、信託期間中、議決権を行使しないものとします。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第2四半期累計期間（2019年7月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合を示すと次のとおりであります。

① 資産基準	1.3%
② 売上高基準	0.4%
③ 利益基準	△2.2%
④ 利益剰余金基準	△0.4%

※会社間項目の消去後の数値により算出しております。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,351,550	988,760
受取手形及び売掛金	1,415,523	917,074
半製品	85,498	87,411
仕掛品	702,261	1,480,732
前渡金	57,359	182,837
前払費用	508,257	576,973
その他	121,022	136,217
貸倒引当金	△45,956	△44,688
流動資産合計	4,195,516	4,325,319
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,675,149	1,638,675
土地	3,267,401	3,267,401
その他（純額）	111,053	113,463
有形固定資産合計	5,053,604	5,019,539
無形固定資産		
ソフトウェア	351,300	348,701
その他	88,618	73,298
無形固定資産合計	439,918	421,999
投資その他の資産		
投資有価証券	1,654,159	1,675,383
その他	1,659,333	1,944,070
貸倒引当金	△3,757	△3,757
投資その他の資産合計	3,309,735	3,615,697
固定資産合計	8,803,258	9,057,236
資産合計	12,998,775	13,382,555
負債の部		
流動負債		
買掛金	238,198	244,206
短期借入金	10,000	1,210,000
1年内返済予定の長期借入金	541,832	776,842
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払金	406,033	437,479
未払費用	861,835	178,896
前受金	884,064	1,574,018
賞与引当金	-	410,135
役員賞与引当金	-	68,988
受注損失引当金	-	3,916
その他	594,648	150,462
流動負債合計	3,636,613	5,154,945

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2019年12月31日)
固定負債		
長期借入金	1,386,471	567,505
社債	350,000	300,000
株式報酬引当金	63,477	76,055
退職給付引当金	2,004,634	2,061,227
役員退職慰労引当金	40,000	40,000
資産除去債務	56,028	56,276
その他	35,175	21,918
固定負債合計	3,935,787	3,122,982
負債合計	7,572,400	8,277,928
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,010,200	1,010,200
資本剰余金	1,159,926	1,159,926
利益剰余金	4,117,147	3,519,239
自己株式	△851,517	△581,148
株主資本合計	5,435,757	5,108,218
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△9,382	△3,590
評価・換算差額等合計	△9,382	△3,590
純資産合計	5,426,374	5,104,627
負債純資産合計	12,998,775	13,382,555

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
売上高	4,610,214	4,554,589
売上原価	2,176,581	2,153,974
売上総利益	2,433,632	2,400,614
販売費及び一般管理費	※1 2,598,789	※1 2,701,934
営業損失(△)	△165,156	△301,320
営業外収益		
受取利息	16	11
有価証券利息	1,408	1,462
受取配当金	1,523	1,528
未払配当金除斥益	1,163	2,645
投資有価証券運用益	27,665	-
仕入割引	-	2,168
その他	1,326	2,058
営業外収益合計	33,102	9,875
営業外費用		
支払利息	8,250	8,298
社債利息	408	1,082
投資有価証券運用損	-	17,434
社債発行費	9,539	-
その他	6,456	9,225
営業外費用合計	24,654	36,040
経常損失(△)	△156,708	△327,484
特別損失		
関係会社株式評価損	241,760	-
固定資産除却損	153	325
会員権評価損	-	12,698
特別損失合計	241,913	13,024
税引前四半期純損失(△)	△398,621	△340,509
法人税、住民税及び事業税	3,459	4,066
法人税等調整額	△117,455	△94,643
法人税等合計	△113,995	△90,576
四半期純損失(△)	△284,626	△249,932

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△398,621	△340,509
減価償却費	131,133	132,775
関係会社株式評価損	241,760	-
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	78,547	56,592
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	3,733	3,916
賞与引当金の増減額 (△は減少)	383,135	410,135
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	50,864	68,988
受取利息及び受取配当金	△2,948	△3,003
支払利息及び社債利息	8,658	9,380
売上債権の増減額 (△は増加)	867,906	1,188,402
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△614,748	△780,384
前払費用の増減額 (△は増加)	△27,929	△28,106
仕入債務の増減額 (△は減少)	△7,950	△153,855
未払金の増減額 (△は減少)	△407,732	△23,250
未払費用の増減額 (△は減少)	△709,595	△682,918
その他	339,446	△206,226
小計	△64,340	△348,062
利息及び配当金の受取額	4,490	21,232
利息の支払額	△8,865	△9,930
法人税等の支払額	△168,999	△216,711
営業活動によるキャッシュ・フロー	△237,714	△553,472
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△32,995	△16,652
無形固定資産の取得による支出	△19,766	△48,977
投資有価証券の取得による支出	△666,255	△50,000
関係会社株式の取得による支出	△10,000	-
保険積立金の積立による支出	△7,971	△7,971
その他	△3,029	△196,624
投資活動によるキャッシュ・フロー	△740,017	△320,226
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	810,000	1,200,000
長期借入れによる収入	403,160	-
長期借入金の返済による支出	△201,466	△583,956
社債の発行による収入	490,460	-
社債の償還による支出	-	△50,000
自己株式の取得による支出	△2	△151
自己株式の処分による収入	278,484	309,524
配当金の支払額	△345,135	△348,050
リース債務の返済による支出	△17,843	△16,468
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,417,658	510,898
現金及び現金同等物に係る換算差額	△87	9
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	439,839	△362,790
現金及び現金同等物の期首残高	1,059,897	1,351,550
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,499,737	※ 988,760

【注記事項】

(追加情報)

1. 従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引について

当社は、従業員持株会（以下「本持株会」という。）に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

2018年に開始したE S O P信託

(1) 取引の概要

当社は、従業員の福利厚生の充実及び当社の中長期的な企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、本持株会に加入するすべての従業員を対象に、当社株式の株価上昇メリットを還元する従業員持株会支援信託E S O P（以下、「2018年E S O P信託」という。）を2018年6月より導入しております。

2018年E S O P信託では、当社が当該信託を設定し、当該信託はその設定後2年11ヵ月間にわたり本持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を、予め一括して取得し、本持株会の株式取得に際して当社株式を売却していきます。

信託終了時まで、当該信託が本持株会への売却を通じて当該信託の信託財産内に株式売却益相当額が累積した場合には、それを残余財産として受益者適格要件を充足する本持株会会員に分配します。また当社は、信託銀行が当社株式を取得するための借入に対し保証をしているため、信託終了時において、当社株価の下落により当該株式売却損相当の借入残債がある場合には、保証契約に基づき当社が当該残債を弁済することとなります。

(2) 信託が保有する自社の株式に関する事項

① 信託における帳簿価額は前事業年度561,157千円、当第2四半期会計期間292,408千円であります。信託が保有する自社株式は株主資本において自己株式として計上しております。

② 期末株式数は前事業年度244,300株、当第2四半期会計期間127,300株であり、期中平均株式数は前第2四半期累計期間426,300株、当第2四半期累計期間171,716株であります。期末株式数及び期中平均株式数は、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

前事業年度554,300千円、当第2四半期会計期間235,010千円

2. 役員向け株式報酬制度の導入について

当社は、取締役（社外取締役を除く。）及び当社と委任契約を締結している執行役（以下、「取締役等」という。）を対象に、これまで以上に当社の中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めることを目的として、役員向け株式報酬制度を導入しております。

2017年に開始した役員向け株式給付信託

(1) 取引の概要

本制度は、取締役等の報酬として、当社が金銭を拠出することにより設定する信託（以下、「2017年役員向け株式給付信託」という。）が当社株式を取得し、当社が定める取締役等株式給付規程に基づいて、各取締役等に付与するポイントの数に相当する数の当社株式及び当社株式の時価に相当する金銭（当社株式とあわせて、以下、「当社株式等」という。）を、当該信託を通じて各取締役等に給付する株式報酬制度です。なお、取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として、取締役等の退任時とします。

(2) 信託が保有する自社の株式に関する事項

① 信託における帳簿価額は前事業年度112,129千円、当第2四半期会計期間110,362千円であります。信託が保有する自社の株式は株主資本において自己株式として計上しております。

② 期末株式数は前事業年度46,779株、当第2四半期会計期間46,040株であり、期中平均株式数は前第2四半期累計期間46,889株、当第2四半期累計期間46,319株であります。期末株式数及び期中平均株式数は、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

(四半期損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
給与手当	1,020,506千円	985,380千円
退職給付費用	56,932千円	50,162千円

2 売上高及び営業費用の季節的変動

前第2四半期累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)及び当第2四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

当社では、多くの顧客が決算期を迎える3月末から6月末に成果品の引渡しが集まる傾向があり、またこの時期は比較的規模の大きなプロジェクトの売上計上時期に相当するため、第2四半期累計期間の売上高及び営業費用は、第3四半期以降と比べ少ない傾向にあります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
現金及び預金	1,499,737千円	988,760千円
現金及び現金同等物	1,499,737千円	988,760千円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年8月6日 取締役会	普通株式	267,673	50.00	2018年6月30日	2018年9月6日	利益剰余金
2018年11月12日 取締役会	普通株式	80,302	15.00	2018年9月30日	2018年12月10日	利益剰余金

(注) 1. 2018年8月6日開催の取締役会での配当金の総額には、2017年役員向け株式給付信託及び2018年E S O P信託が保有する自社の株式に対する配当金がそれぞれ、2,350千円、25,015千円含まれております。

2. 2018年11月12日開催の取締役会での配当金の総額には、2017年役員向け株式給付信託及び2018年E S O P信託が保有する自社の株式に対する配当金がそれぞれ、705千円、6,562千円含まれております。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年2月12日 取締役会	普通株式	80,302	15.00	2018年12月31日	2019年3月11日	利益剰余金

(注) 2019年2月12日開催の取締役会での配当金の総額には、2017年役員向け株式給付信託及び2018年E S O P信託が保有する自社の株式に対する配当金がそれぞれ、701千円、5,568千円含まれております。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2018年8月6日開催の取締役会決議に基づき、2018年8月27日付で、自己株式606,000株の消却を実施いたしました。これにより、資本剰余金及び自己株式がそれぞれ、737,105千円減少しております。なお、株主資本の合計金額には影響ありません。

Ⅱ 当第2四半期累計期間（自 2019年7月1日 至 2019年12月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年8月8日 取締役会	普通株式	240,906	45.00	2019年6月30日	2019年9月12日	利益剰余金
2019年11月11日 取締役会	普通株式	107,069	20.00	2019年9月30日	2019年12月9日	利益剰余金

(注) 1. 2019年8月8日開催の取締役会での配当金の総額には、2017年役員向け株式給付信託及び2018年E S O P信託が保有する自社の株式に対する配当金がそれぞれ、2,105千円、10,933千円含まれております。

2. 2019年11月11日開催の取締役会での配当金の総額には、2017年役員向け株式給付信託及び2018年E S O P信託が保有する自社の株式に対する配当金がそれぞれ、924千円、3,542千円含まれております。

3. 2019年8月8日開催の取締役会での1株当たりの配当額には、創立60周年記念配当10円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年2月12日 取締役会	普通株式	107,068	20.00	2019年12月31日	2020年3月9日	利益剰余金

(注) 2020年2月12日開催の取締役会での配当金の総額には、2017年役員向け株式給付信託及び2018年E S O P信託が保有する自社の株式に対する配当金がそれぞれ、920千円、2,546千円含まれております。

(持分法損益等)

	前事業年度 (2019年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2019年12月31日)
関連会社に対する投資の金額	286,545千円	286,545千円
持分法を適用した場合の投資の金額	267,773千円	217,020千円
	前第2四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
持分法を適用した場合の投資損失(△)の金額	△156,624千円	△50,752千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	エンジニアリング コンサルティング	プロダクツ サービス	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,259,924	1,350,289	4,610,214	—	4,610,214
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,259,924	1,350,289	4,610,214	—	4,610,214
セグメント利益	997,990	81,906	1,079,897	△1,245,053	△165,156

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,245,053千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期累計期間（自 2019年7月1日 至 2019年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	エンジニアリング コンサルティング	プロダクツ サービス	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,090,368	1,464,220	4,554,589	-	4,554,589
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,090,368	1,464,220	4,554,589	-	4,554,589
セグメント利益	866,270	119,161	985,432	△1,286,752	△301,320

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,286,752千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)
1 株当たり四半期純損失金額	58円32銭	48円67銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額 (千円)	284,626	249,932
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額 (千円)	284,626	249,932
普通株式の期中平均株式数 (株)	4,880,281	5,135,427

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 株主資本において自己株式として計上されている2017年役員向け株式給付信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純損失金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
1株当たり四半期純損失金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第2四半期累計期間46,889株、当第2四半期累計期間46,319株であります。

3. 株主資本において自己株式として計上されている2018年E S O P信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純損失金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
1株当たり四半期純損失金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第2四半期累計期間426,300株、当第2四半期累計期間171,716株であります。

2 【その他】

2019年11月11日開催の取締役会において、2019年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 107,069千円 |
| ② 1株当たりの金額 | 20円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2019年12月9日 |

(注) 2019年11月11日開催の取締役会での配当金の総額には、2017年役員向け株式給付信託及び2018年E S O P信託が保有する自社の株式に対する配当金がそれぞれ、924千円、3,542千円含まれております。

2020年2月12日開催の取締役会において、2019年12月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|-----------|
| ① 配当金の総額 | 107,068千円 |
| ② 1株当たりの金額 | 20円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2020年3月9日 |

(注) 2020年2月12日開催の取締役会での配当金の総額には、2017年役員向け株式給付信託及び2018年E S O P信託が保有する自社の株式に対する配当金がそれぞれ、920千円、2,546千円含まれております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月12日

株式会社構造計画研究所
取締役会 御中

P w C あらた有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩尾 健太郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 善場 秀明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社構造計画研究所の2019年7月1日から2020年6月30日までの第62期事業年度の第2四半期会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第2四半期累計期間(2019年7月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社構造計画研究所の2019年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月12日
【会社名】	株式会社構造計画研究所
【英訳名】	KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長 服部 正太
【最高財務責任者の役職氏名】	専務執行役 荒木 秀朗
【本店の所在の場所】	東京都中野区本町四丁目38番13号 日本ホルスタイン会館内
【縦覧に供する場所】	株式会社構造計画研究所 大阪支社 (大阪市中央区淡路町三丁目6番3号 御堂筋MTRビル5階) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長服部正太及び当社専務執行役荒木秀朗は、当社の第62期第2四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。